

令和7年度

事業報告書

令和7年4月1日から

令和8年3月31日まで

公益財団法人 鉄鋼環境基金

令和7年度事業報告 目次

	ページ
I. 研究助成事業（公益目的事業）	1
1. 助成研究の募集	1
2. 応募状況	2
3. 助成研究の決定	2
4. 助成研究者との技術交流会、研究討論会並びに製鉄所見学会の開催	4
5. 助成研究成果表彰	5
6. 助成研究成果の普及・広報活動	6
II. 調査・研究事業（その他目的事業）	7
III. 管理・運営	7
1. 会議開催状況	7
2. 広報活動	10
3. 事務局体制	10
附属明細書について	10

I. 研究助成事業（公益目的事業）

1. 助成研究の募集

一般研究助成事業と大規模研究助成事業のうち、大規模研究助成事業に関しては該当する設定課題が無く、本年度は一般研究助成事業のみ助成研究の募集を行った。

助成研究の募集は、従来通り一般研究助成枠と若手研究助成枠（研究内容は、より基礎的なものも含む）を設けて行った。募集に当たっては、募集要綱に下記に示す鉄鋼業に関連する環境保全技術課題を例示するとともに、課題の背景についても解説し、さらに特に関心のある課題として、下記の6項目を掲げることで、応募者のテーマ選定の参考とした。

本年度の公募は、環境研究実施法人窓口へのメール連絡と財団ホームページへの募集要綱の掲載、さらに環境関係の研究を実施している国公立大学、高等専門学校及び独立行政法人を含む公的研究機関等335法人に直接送付することにより行った。

なお、募集要綱については、本年度もメールにより連絡し、当財団のホームページからダウンロードする方式とした。

また、例年どおり、申請書様式のホームページからのダウンロード、メール添付での申請書の受領など、応募者・事務局双方の利便性に配慮した募集活動を行った。

<鉄鋼業に関連する環境保全技術課題の具体例>

(1) 地球環境問題

- ① カーボンニュートラル実現に向けた革新的基盤技術（CCS、CCU、水素製造・利用含む）
- ② 鉄鋼製造プロセスにおける抜本的な二酸化炭素排出削減技術
- ③ 未利用エネルギーの有効活用技術
- ④ 地球温暖化に対する適応技術（温室効果ガスの吸収・除去含む）
- ⑤ 鉄鋼製造プロセスにおける環境汚染物質発生抑制技術

(2) 資源循環技術（副産物、廃棄物の利用促進技術・効率的処理技術）

- ① 鉄鋼スラグ（高炉スラグ、転炉スラグ、電気炉スラグ等）の利用技術及び高付加価値化技術
- ② 鉄鋼ダスト、鉄鋼スラッジ、鉄鋼スラグ、廃レンガの減量化、減容化、再利用技術
- ③ プラスチックリサイクルなど循環型社会形成に資する技術
- ④ 他産業の副産物及び廃棄物の鉄鋼業への有効利用技術

(3) 大気環境保全技術

- ① 光化学オキシダント対策技術、PM2.5対策技術および測定技術・影響評価
- ② 大気環境対策技術の省エネルギー化、低コスト化、高効率化、気候影響
- ③ 水銀等重金属類の低減技術

(4) 土壌・水質保全技術

- ① 水処理技術の高効率化、排水中重金属等の除去・回収技術および測定技術・影響評価
- ② 土壌・地下水汚染に関する浄化技術および測定技術・影響評価
- ③ 閉鎖性海域の環境対策技術

<特に関心のある技術課題>

上記技術課題の中で、現在、鉄鋼関連で特に関心があるのは以下の課題である。

(1) カーボンニュートラル実現に向けた革新的基盤技術（CCS、CCU、水素製造・利用含む）

例：二酸化炭素回収・固定化、隔離に関する研究、二酸化炭素分離、資源化に関する研究、水素製造、水素利用、再生可能エネルギーの利用、高効率化研究

(2) 鉄鋼製造プロセスにおける抜本的な二酸化炭素排出削減技術

例：カーボンニュートラル製鉄に向けた基礎研究、炭素を使わない鉄鉱石還元に関する研究

(3) 未利用エネルギーの有効活用技術

例：蓄熱材の開発、熱電変換技術の開発、電力貯蔵に関する研究

(4) 鉄鋼スラグ（高炉スラグ、転炉スラグ、電気炉スラグ等）の利用技術及び高付加価値化技術

例：スラグを用いたコンクリート高品質化技術

(5) プラスチックリサイクルなど循環型社会形成に資する技術

例：プラスチックリサイクルの多様化および高効率化技術

(6) 光化学オキシダント対策技術および測定技術・影響評価

例：光化学オキシダント発生機構の研究、対策技術

2. 応募状況

応募数は、一般 119 件、若手 56 件の合計 175 件で、前年度の 151 件から 24 件増加した。

2006～2017 年度の応募件数が旺盛な頃に戻ったことになる。分野別には下表の通りである。

分類	応募件数			申請額 (千円)	研究費総額 (千円)
	総件数	一般	若手		
地球環境	90	59	31	127,301	232,272
資源循環(副産物)	31	24	7	41,700	62,850
大気環境	20	14	6	26,991	49,500
土壌・水質	34	22	12	43,415	63,340
その他	0	0	0	—	—
合計	175	119	56	239,407	407,962

3. 助成研究の決定

本年度の助成金の枠は、75 百万円とした。上記応募案件の中から、技術委員会の選定を経て第 69 回臨時理事会において、一般助成研究 40 件と若手助成研究 15 件の合計 55 件を決定した。

分類	採択件数			助成額 (千円)	研究費総額 (千円)
	総件数	一般	若手		
地球環境	32	22	10	46,900	107,100
資源循環(副産物)	11	10	1	15,000	23,100
大気環境	4	2	2	4,500	15,000
土壌・水質	8	6	2	9,050	14,250
その他	0	0	0	0	0
合計	55	40	15	75,450	159,450

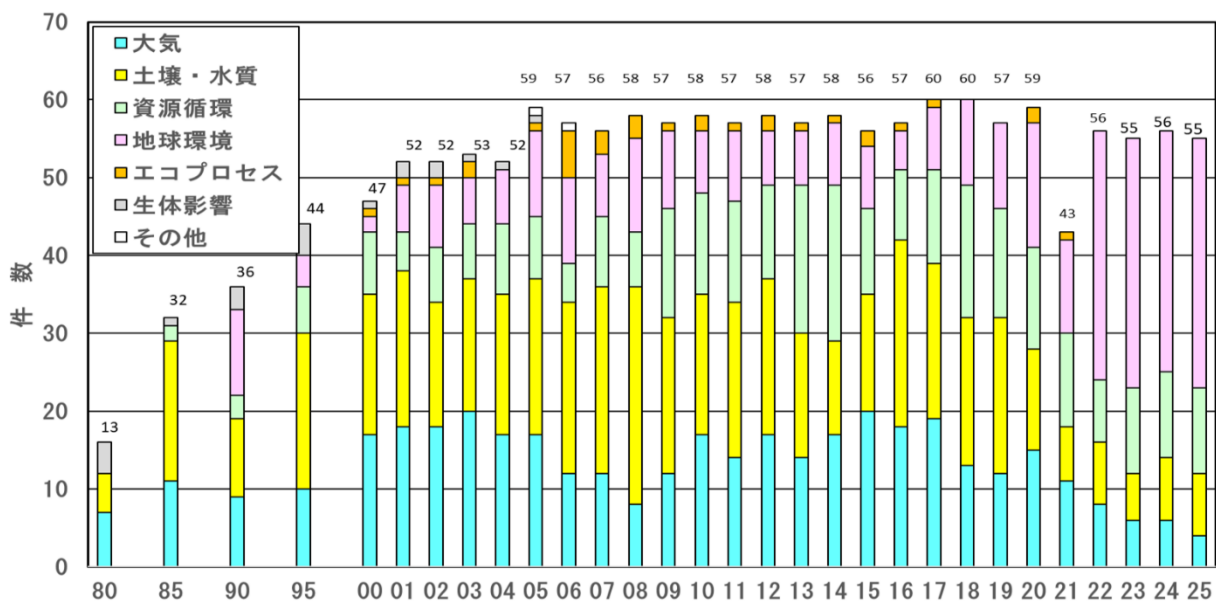
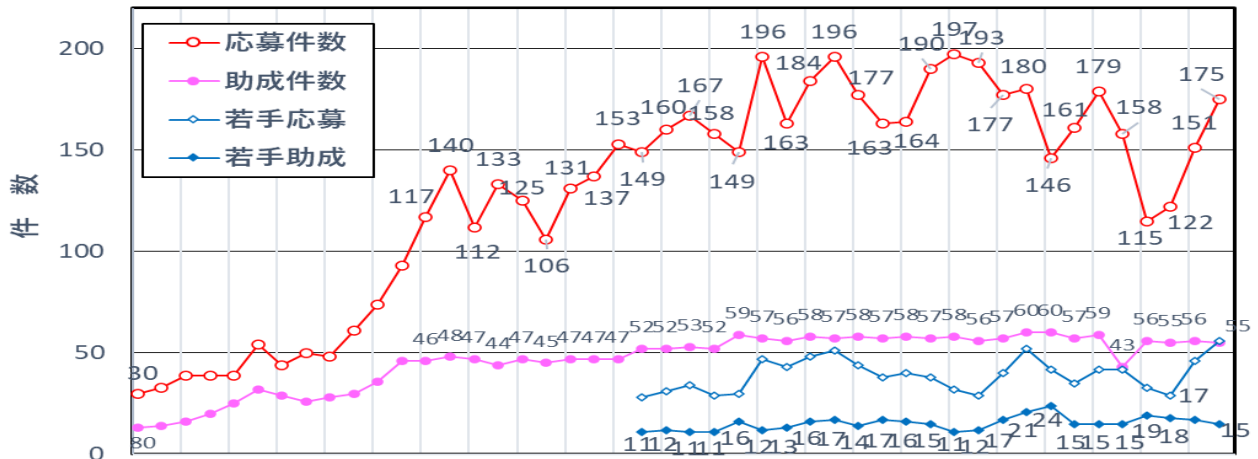
本年度を含めた過去 4 年の応募・助成件数および各項目の採択率は下記の通り。

		令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
応募 件 数	応募総件数	175	151	122	115
	継続研究	32	28	34	19
	新規研究	143	123	88	96
	初応募	57	45	30	26
	若手研究	56	46	29	33
	大学から	147	129	110	103
	高専から	13	12	4	7
	研究所等から	15	10	8	5
		令和 7 (採択率)	令和 6 (採択率)	令和 5 (採択率)	令和 4 (採択率)
採 択	採択総件数	55/175 (31%)	56/151 (37%)	55/122 (45%)	56/115 (49%)
	継続研究	23/32 (72%)	24/28 (86%)	29/34 (85%)	18/19 (95%)
	新規研究	32/143 (22%)	32/123 (26%)	26/88 (30%)	38/96 (40%)

件数	初採択	12	18	19	17
	若手研究	15/56(27%)	17/46(37%)	18/29(62%)	19/33(58%)
採択件数		令和7(採択率)	令和6(採択率)	令和5(採択率)	令和4(採択率)
	採択総件数	55/175(31%)	56/151(37%)	55/122(45%)	56/115(49%)
	大学から	48	49	51	52
	高専から	2	3	2	2
研究所等から	5	4	2	2	

- (1) 2022～23年度の間、応募件数が顕著に減少していたが、以前の水準まで応募件数が増加した。
- (2) 2022年度から地球環境分野に重点をおいた公募を行ってきた。地球環境分野の応募件数が著しく増え、採択件数全体に占める地球環境分野の採択件数の割合(32/55件)も目標の50%をオーバー達成した。
- (3) その他の分野の応募件数について、資源循環は微増、大気環境はやや減少したものの、土壌・水質は増加傾向である。
- (4) 若手研究については応募件数56件で、昨年より10件増加したものの、若手採択数は昨年度より2件減少の15件であった。今後は若手採択数が増加するような施策を講じる予定である。

鉄鋼環境基金の助成実績



分野別助成件数の推移

4. 助成研究者との技術交流会、研究討論会並びに製鉄所見学会の開催

(1) 技術交流会

技術交流会は、助成研究の初期段階において、助成研究者の研究現場を鉄鋼技術者が訪問し、産学連携の視点から研究課題や研究の進め方等の議論を行い、技術交流を深めることを目的としている。令和7年度は、下記の通り、助成研究者8名と技術交流会を実施した。

9,10回目は令和8年4月実施のため記載せず（令和8年度事業報告）。なお令和6年度案件で令和7年度4月実施の1件も記載した。

- ① 令和7年4月11日 助成者：沖縄工業高等専門学校 赤嶺 宗子
テーマ： 低環境負荷ジオポリマーコンクリートの放熱性に関する研究
- ② 令和7年12月10日 助成者：立命館大学 柏倉 俊介
テーマ： 産業連関分析によるグリーンスチール生産のCO2削減の波及効果
- ③ 令和7年12月19日 助成者：和歌山県立医科大学 堤 峻太郎
テーマ： 汚染物質予測を目指した、緑藻の化学物質応答遺伝子群の情報集積
- ④ 令和8年1月19日 助成者：大阪大学 布谷 直義
テーマ： 安全な条件で二酸化炭素をメタンへと資源化する新規触媒
- ⑤ 令和8年1月19日 助成者：大阪大学 芳賀 優弥
テーマ： マイクロ・ナノプラスチックの劣化による分解生成物の影響評価
- ⑥ 令和8年2月27日 助成者：山梨大学 佐藤 賢之介
テーマ： 高炉スラグを用いた低炭素型コンクリートの電力貯蔵性能の評価
- ⑦ 令和8年3月19日 助成者：室蘭工業大学 張 裕喆
テーマ： 鉄鋼産業由来の廃棄ガスを利用したSDGs実現型バイオポリマー産生
- ⑧ 令和8年3月25日 助成者：(国研)産業技術総合研究所 宮崎 眞太
テーマ： 多元機能触媒による革新的排ガス中CO2回収・水素化プロセスの開発
- ⑨ 令和8年3月31日 助成者：秋田県立大学 渡邊 美穂
テーマ： 原油汚染土壌で機能する微生物発電システムの機能解明と環境修復

(2) 研究討論会

研究討論会は、助成研究が進んだ段階で助成研究者を招待し、研究成果・今後の研究課題について、産学連携の視点から鉄鋼技術者と討論することを目的としている。

令和7年度は、下記の通り、3回の研究討論会を実施した。（鉄鋼会館でWEB会議との併用で開催）

- ① 令和7年度第1回 大気環境&土壌・水質分野 令和8年2月13日
 - ・報告者：北海道大学 菊川 峰志（令和6～7年度：一般研究）
テーマ：太陽光をエネルギー源とする重金属回収大腸菌の開発
 - ・報告者：名古屋大学 長田 和雄（令和6～7年度：一般研究）
テーマ：光化学オキシダントの生成に対する越境アルデヒドの影響評価
 - ・報告者：山口大学 今井 剛（令和6～7年度：一般研究）
テーマ：排水処理の脱炭素化に資する液膜技術による新規曝気装置の開発
 - ・報告者：北海道大学 野呂 真一郎（令和6～7年度：一般研究）
テーマ：金属有機構造体を用いた水中有害アニオンの高効率分離
- ② 令和7年度第2回 資源循環分野 令和8年2月19日
 - ・報告者：東京大学 山本 光夫（令和6～7年度：一般研究）
テーマ：遺伝子発現解析に基づく沿岸域における鉄欠乏診断手法の検討
 - ・報告者：大阪大学 鈴木 賢紀（令和6～7年度：一般研究）

- テーマ：水熱処理を利用した製鋼スラグからの有価資源回収ルート構築
- 報告者：東北大学 柴田 悦郎（令和6～7年度：一般研究）
- テーマ：減圧電熱還元による高リン鉄鉱石の気化脱リンと還元鉄の製造
- 報告者：山口大学 李 柱国（令和5～7年度：一般研究）
- テーマ：鉄鋼スラグを原料とするCO2固定型セメントの開発

- ③ 令和7年度第3回地球環境分野 令和8年3月10日
- 報告者：京都大学 坂部 綾香（令和6～7年度：若手研究）
 - テーマ：森林土壌における温室効果ガス動態の長期的な環境応答性の解明
 - 報告者：九州大学 石田 洋平（令和6～7年度：若手研究）
 - テーマ：水と二酸化炭素から有用物質を作り出す人工光合成システムの開発
 - 報告者：北海道大学 張 麗華（令和5～7年度：一般研究）
 - テーマ：炭酸鉄水中結晶光合成を利用した常温フォトメタネーション
 - 報告者：広島大学 畠 俊郎（令和5～7年度：一般研究）
 - テーマ：生体模倣機能に着目した新たな炭素固定能力付加型地盤材料の提案

(3) 製鉄所見学会の開催

鉄鋼業に対する助成研究者の理解を深めていただくことを目的に、前年度の助成研究者を対象に第16回製鉄所見学会を開催した。

期 日 令和7年5月8日
見学先 (株)神戸製鋼所 加古川製鉄所
参加者 採択者20名、技術委員1名、評議員1名

5. 助成研究成果表彰

助成研究のさらなる充実、助成研究者へのインセンティブ向上を目的に、第16回助成研究成果表彰を実施した。表彰対象者への募集の結果、11名の応募があり、技術委員会による審査により各賞の候補者を選考し、令和7年5月27日の第66回通常理事会において各賞受賞者を決定した。表彰式並びに受賞記念講演会を令和7年9月1日に鉄鋼会館(及びWEB)において開催した。

賞の名称	表彰対象者
理事長賞	環境技術及び学術の進歩を通して鉄鋼業や社会に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者 受賞者：本多 了 金沢大学理工研究域地球社会基盤学系 教授 テーマ：微生物カプセルMBR法によるPFAS汚染水処理プロセスの開発
技術委員長賞	環境技術及び学術の進歩に、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた若手助成研究者 受賞者：池盛 文数 長崎大学総合生産科学域環境科学系 准教授 テーマ：人為起源二次有機粒子の実態解明を目指した観測・解析手法の開発
鉄鋼技術賞	鉄鋼環境技術の進歩を通して鉄鋼業に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者 受賞者：増田 秀樹 鈴鹿医療科学大学 客員教授 テーマ：炭酸ガスを捕捉し有用性物質へ変換する革新的触媒技術の創製

6. 助成研究成果の普及・広報活動

(1) 助成研究成果概要集の発行

令和6年度分33件（令和4年度の1件、令和5年度の5件を含む：地球環境：18件、資源循環：8件、大気環境：5件、土壌水質：2件）を概要集として取りまとめ、研究成果の活用を

推進するため、ホームページ上で公開した。

(2) 助成研究成果報告書データベースの一般公開

財団の主事業である環境研究助成事業の成果をより広く社会に還元・普及していくことを目的に、助成した環境研究の成果報告書等を収録したデータベース「FERAS」をホームページ上に一般公開している。「FERAS」には、昭和 55（1980）年からの成果報告書が収録されており、今回令和 6 年度分 33 件を収録して、合計 1182 件となった。

* FERAS : The Fruits of the Environmental Researches Aided by SEPT

(3) 研究成果報告会の開催

助成研究の成果をより広く活用していただくことを目的に公開の報告会を鉄鋼会館で WEB 会議との併用で開催した。

【令和 6 年度成果報告会】

期日 : 令和 7 年 4 月 16 日

参加者 : 22 名

テーマ : 地球環境分野

報告者 ○ 広島大学 准教授 宇敷 育男 (WEB 参加)

イオン液体含浸 MOF の新規創製 : 超臨界流体法によるアプローチ
〔令和 3 年度～4 年度 若手研究〕

○ 千歳科学技術大学 准教授 脇坂 聖憲 (WEB 参加)

二酸化炭素を固定する高密度高分散モリブデンクラスター触媒開発
〔令和 3 年度 若手研究〕

○ 東北大学 教授 村上 太一 (WEB 参加)

ゼロカーボンを実現する炭素循環製鉄原理の創成
〔令和 3 年度～4 年度 一般研究〕

○ (国研)産業技術総合研究所 グループ長 三重 安弘 (WEB 参加)

高効率・高選択的な CO₂ 変換のためのバイオミメティック触媒の開発
〔令和 3 年度 一般研究〕

【令和 7 年度成果報告会】

期日 : 令和 8 年 3 月 27 日

参加者 : 76 名

テーマ : 資源循環分野

報告者 ○ 九州大学 助教 福永 隆之

初期強度を向上させた高炉スラグ含有型環境低負荷材料の開発
〔平成 3 年度～4 年度 若手研究〕

○ 秋田大学 技術専門職員 齋藤 憲寿

秋田県玉川酸性水の中和処理技術の開発 〔令和 4 年度 若手研究〕
玉川酸性水の改善および資源循環を目的としたスラグ造粒物の開発
〔令和 5 年度 若手研究〕

○ (国研)海上・港湾・航空技術研究所 主任研究官 小池賢太郎

鉄鋼スラグ水和固化体の耐海水性の促進評価法の提案
〔令和 5 年度 若手研究〕

○ 静岡大学 准教授 一家 崇志

茶園への鉄鋼スラグ散布による土壌改良と茶品質向上効果の検証
〔令和元年度～3年度 一般研究〕

II. 調査・研究事業（その他目的事業）

調査・研究事業については、本財団の主事業である助成事業に資するため、将来の鉄鋼業に関わる環境保全技術および環境政策上の諸課題を踏まえ、広く知見の収集・調査を行った。具体的なテーマは以下の通り。

「欧州における環境規制議論の最新動向調査研究」

コンサルタント藤原範子（令和7年10月～令和8年3月）

中間報告会(1月)、最終報告会(3月)を実施。欧州における2030年GHG排出削減目標達成に向けての政策強化、法規制の改訂などの進捗・現状把握を行うことにより、欧州の環境規制をめぐる議論が日本の鉄鋼業界に及ぼす影響を考察した。その結果は今後の国内カーボンニュートラル政策の転換期において、鉄鋼業界への影響を対外的に説明する際に活用する。

III. 管理・運営

1. 会議開催状況

〔1〕 理事会

理事会の開催状況は次の通りである。

(1) 第65回臨時理事会（令和7年4月1日）（「決議の省略」による開催）

議題

① 技術委員の委嘱（案）の件

（補欠就任）令和7年4月1日付

委員 丸山 雅志 日本製鉄株式会社

（辞任） 令和7年4月1日付

委員 御福 浩樹 日本製鉄株式会社

(2) 第66回通常理事会（令和7年5月27日）

議題

① 令和6年度事業報告書（案）の承認の件

② 令和6年度決算報告書（案）の承認の件

③ 理事候補者の件

（新任） 令和7年6月23日付

一松 栄司 公益財団法人鉄鋼環境基金 事務局 次長

（辞任） 令和7年6月23日付

亀谷 岳文 公益財団法人鉄鋼環境基金 事務局長 専務理事

④ 評議員候補者の件

（補欠就任）令和7年6月23日付

日野 忠明 JFEスチール株式会社常務執行役員

（辞任） 令和7年6月23日付

朝比奈 健 JFEスチール株式会社専務執行役員

⑤ 第16回（令和7年度）助成研究成果表彰（案）の件

⑥ 令和7年度寄附金募集の件

⑦ 第 32 回定時評議員会招集の件

報告事項

⑧ 代表理事（理事長、専務理事）の職務執行状況

(3) 第 67 回臨時理事会（令和 7 年 6 月 20 日）（「決議の省略」による開催）

議題

① 評議員候補者の件

（補欠就任）令和 7 年 6 月 23 日付

及川 洋 石油連盟常務理事

（辞任）令和 6 年 6 月 24 日付

吉村 宇一郎 前石油連盟常務理事

② 事務局長任命の件

（就任）令和 7 年 6 月 23 日付

一松 栄司 公益財団法人 鉄鋼環境基金 事務局次長

（辞任）令和 7 年 6 月 23 日付

亀谷 岳文 公益財団法人 鉄鋼環境基金 事務局長

(4) 第 68 回臨時理事会（令和 7 年 6 月 30 日）（「決議の省略」による開催）

議題

① 専務理事互選の件

（就任）令和 7 年 7 月 1 日付

専務理事 一松 栄司 理事

② 第 33 回臨時評議員会招集の件

(5) 第 69 回臨時理事会（令和 7 年 10 月 28 日）

議題

① 第 46 回(令和 7 年度)研究助成金交付の件

報告事項

① 代表理事（理事長、専務理事）の職務執行状況

② その他（来年度の技術委員増員について、ニュースレター 82 号等について）

(6) 第 70 回通常理事会（令和 8 年 3 月 9 日）

議題

① 令和 8 年度事業計画書（案）承認の件

② 令和 8 年度収支予算書（案）承認の件

③ 令和 8 年度資金調達及び設備投資の見込み（案）承認の件

④ 技術委員の委嘱（案）について

（新任）令和 8 年 4 月 1 日付（五十音順）

所 千晴 早稲田大学 創造理工学部長 教授（地球環境分野、資源循環分野）

藤田 壮 東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 教授（地球環境分野）

村上 進亮 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 教授（資源循環分野）

報告事項

① 第 47 回（令和 8 年度）環境助成研究募集要綱について

② 代表理事（理事長、専務理事）の職務執行状況

〔2〕 評議員会

評議員会の開催状況は次の通りである。

(1) 第32回定時評議員会（令和7年6月23日）

議題

- ① 令和6年度事業報告及び承認の件
- ② 令和6年度決算報告及び承認の件
- ③ 理事選任の件

（補欠就任） 令和7年6月23日付

一松 栄司 公益財団法人鉄鋼環境基金 事務局 次長

（辞任） 令和7年6月23日付

亀谷 岳文 公益財団法人鉄鋼環境基金 事務局長 専務理事

④ 評議員選任の件

（補欠就任） 令和7年6月23日付

日野 忠明 JFEスチール株式会社常務執行役員

及川 洋 石油連盟常務理事

（辞任） 令和7年6月23日付

朝比奈 健 JFEスチール株式会社専務執行役員

吉村 宇一郎 前石油連盟常務理事

報告事項

- ① 第16回(令和7年度)助成研究成果表彰の件
- ② 第46回(令和7年度)環境助成研究応募状況の件
- ③ 令和7年度寄附金募集の件

(2) 第33回臨時評議員会（令和7年7月7日）（「決議の省略」による開催）

議題

- ① 評議員会議長選任の件

評議員会議長

（就任） 日野 忠明 JFEスチール株式会社常務執行役員

〔3〕 技術委員会

技術委員会の開催状況は次の通りである。

(1) 第150回技術委員会（令和7年4月9日）（「決議の省略」による開催）

議題

- ① 技術委員長互選の件

技術委員長 酒井 伸一 氏

(2) 第151回技術委員会（令和7年5月20日）（WEB会議を併用）

議題

- ① 第16回(令和7年度)助成研究成果表彰の選考の件
- ② その他（成果表彰募集対象期間拡大効果について他）

(3) 第152回技術委員会（令和7年7月15日）（WEBによる開催）

議題

- ① 第46回(令和7年度)助成研究の審査分担等について
- ② 第16回助成研究成果表彰式の開催について

(4) 第 153 回技術委員会（令和 7 年 10 月 16 日）（WEB 会議を併用）
議題

① 第 46 回(令和 7 年度)助成研究案件の選定について

2. 広報活動

(1) ホームページの充実・情報の発信

当財団の概要並びに研究助成事業等についてホームページ上にて紹介し、募集開始・応募状況・助成者の決定・成果報告会開催などタイムリーに情報を掲載するとともに、各研究機関・研究者に対して電子メールにより情報を発信した。

(2) 鉄鋼環境基金ニュースの発行

広く関係者が閲覧できるようにホームページに鉄鋼環境基金ニュースを掲載した。

No.（発行月）	主要な掲載内容
第 80 号（令和 7 年 4 月）	・ 第 46 回(令和 7 年度)助成研究募集のご案内 ・ 令和 6 年度助成研究成果報告会のご案内
第 81 号（令和 7 年 7 月）	・ 第 16 回(令和 7 年度)助成研究成果表彰 受賞者の決定 ・ 第 46 回(令和 7 年度)助成研究テーマの応募結果 ・ 第 16 回(令和 7 年度)製鉄所見学会(神戸製鋼 加古川製鉄所)
第 82 号（令和 7 年 11 月）	・ 第 46 回(令和 7 年度)助成研究テーマの決定 ・ 第 16 回(令和 7 年度)助成研究成果表彰 表彰式・記念講演会の開催状況

3. 事務局体制

事務局は下記 2 名の体制にて事業を推進した。（令和 8 年 3 月末時点）

一松 栄司 専務理事・事務局長

稲垣 嘉憲 総務担当部長

なお、令和 7 年 4～6 月は亀谷岳文氏が専務理事・事務局長を務めた。

附属明細書について

令和 7 年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以上